

備後版

福山喜多会による正月恒例の「新春能楽祭」と大島さんが「魅せる」が三日、福山市鞆町後地沼名前神社の能舞台であり、華麗な舞が観衆を魅了した。

国重文の能舞台は、豊臣秀吉が愛用していたといわれ、戦場でも能が楽しめるように持ち運びを可能にした組み立て式。能楽祭では、同会の大島政允(あきひさ)主宰(みさし)が五穀豊穣を祈る能「翁」を奉納した。

笛や小鼓のみやびな演奏や能独特の地謡に合わせ、流麗な舞を披露。参拝客ら約百三十人は、静けさの中から伝わってくる迫力、

沼名前神社・能楽祭

華麗な舞 観衆魅了



観衆を魅了した能「翁」

流れるような足さばきな長男の大島輝久さん(ひし)による仕舞「高砂」もあ町、自営業佐藤弘幸さん(ひろゆき)は「日本古来の歴史」を賞に訪れた同市賀島や文化が感じられて良かった。正月早々、いい舞台を見ることができました」と話した。

(内田光祐)